

研究題目 ふるさと甚目寺 ～人や地域を思いやる心を育む ESD の実践を通して～

研究要項

1 研究のねらい

ESD とは、「持続可能な発展のための教育」と訳され、「持続可能な社会の担い手を育む教育」と言える。本校は、ESD の取組を行って3年目となる。1年目は、ESD の視点から、今まで以上に人や地域に積極的に関わろう、伝えよう、つながろうとする姿勢を育んできた。ここでいう地域とは、学区を中心とした甚目寺地区をさす。2年目は、話し合い活動の充実を図り、子どもたちがより主体的に ESD の取組を行えるようにした。

その結果、全校児童を対象とした昨年度末の ESD 事後アンケートでは、「甚目寺をすばらしい町、よい町だと思いますか」「甚目寺を自分の『ふるさと』として、大切にしたいと思いますか」の質問には、約7割の児童が「そう思う」と答え、一定の成果が得られた。一方、「甚目寺の現在や未来のために何か考えたり、行動したりしたいと思いますか」という質問には、3割強の児童が「そう思う」と答えたのみであった。子どもたちは様々な取組を行い、ふるさとを大切に思うようになってきたが、自発的に行動に移そうとするまでの気持ちには十分至っておらず、ふるさとを心から思う気持ちの伴った取組とては言い難いという問題点が見えてきた。これまでの取組の中だけでは、じっくりと地域の将来、地域の人の将来、その地域の発展に関わる自分の将来について考えることは難しいと感じた。

そこで、本年度は行動面に重点をおきがちであった取組を見直し、情意面と行動面の両面から見て、取組を考えていくことにした。つまり、ESD の取組を行う中で、要所に道徳の時間を設け、ESD と道徳の連携を強化する。そして、道徳の時間では思いやりや郷土愛をテーマとした題材を中心に扱い、ESD に必要な情意面を育てることにした。このように、情意面と行動面を計画的に育てることで、この地域を将来的にも持続発展させていくために、将来、地域の主役となる子どもの育成をはかっていきたい。

本年度の5年生では、地域の産業に目を向けて ESD の取組を行う。地域の産業には、長い伝統を受け継いでいる店、世界に誇る技術をもつ工場、地元の農産物を熱心に育てている農家などさまざまなものがある。そこで、地域の産業を調べるだけでなく、道徳の時間などを用いて、道徳的心情を高めつつ、地域の産業を担っている人々の思いや工夫、努力、協力にも目を向け、地域の人の活動に誇りをもたせたい。そして、それをどのように受け継ぎ、伝え、地域とつながっていくのかを考え、行動させていきたい。

2 研究の仮説と方法

(1) 研究仮説

目指す児童像を次のように掲げ、研究のねらいをもとに研究仮説を設定した。

目指す児童像

- I 地域の産業に関わる人、もの、ことに興味関心をもち、主体的にかかわる児童
- II 互いを認め、尊重し合い、人の気持ちや思いに気づき、地域の将来のためによりよく行動できる児童



研究仮説

仮説Ⅰ 地域の産業に対して、本物に触れ、自ら働きかける取組を行うことにより、子どもたちは地域の産業に興味関心をもち、主体的にかかわろうとするであろう。

仮説Ⅱ 思いやりや郷土愛をテーマとした道德の時間を設定し、話し合いを深める実践を行うことにより、子どもたちは人の気持ちや思いに気づき、地域の将来のためによりよく行動しようとするであろう。

(2) 研究の方法

仮説Ⅰに対しての手だて

手だて① 地場産業として、伝統のある刷毛作りについて出前授業やインタビューなどの活動を行う。

手だて② 地域の様々な会社や農家に出向いて、見学したりインタビューしたりする。

仮説Ⅱに対しての手だて

手だて③ 道德の時間において、子どもの生活や地域の中で身近に感じる題材で、思いやりの心を育む授業を行う。

手だて④ 道德の時間において、郷土の偉人を取り上げた題材を扱い、郷土愛を育む授業を行う。

手だて⑤ 話し合いが円滑に進むようワークシートを用いた話し合いを行う。

3 主な研究実践計画

(1) 道德の研究授業

- ・思いやりを育む自作教材の選定（手だて③）

ESDの取組の前に、学級の中での仲間づくりのため、思いやりをテーマとした道德の授業を行う。

- ・ワークシートの利用（手だて⑤）

ワークシートを用いて話し合いを行うことで、自分の考えを整理しながら、目指す価値によりせまった考え方ができるようにする。

(2) 地場産業の学習

- ・5月28日(水) 刷毛組合の出前授業（手だて①）

甚目寺地区の昔から伝わる産業である刷毛について、刷毛組合の方に授業を行ってもらおう。甚目寺の刷毛作りの基礎を築いた山崎政三郎氏の業績、刷毛を作る上で大切な動物の毛の種類や毛の組み合わせ方、刷毛作りの工程などを学習する。さらに、甚目寺が日本一の刷毛生産地であること、刷毛産業が外国製品の台頭や後継者問題など厳しい状況にあること、料理や塗装などの専門家の仕事を甚目寺の刷毛は支えていることなどについて知る。

- ・道德の授業（手だて④）

刷毛の創始者・山崎政三郎氏の苦労や工夫、さらにその思いを学習することから、郷土愛を育む。わたしたちの甚目寺や甚目寺町史などをもとに、価値にせまる。

(3) 地域の産業の学習

- ・地域の産業についての調べ学習（手だて②）

刷毛の学習を初めとして、地域の商業、工業、農業などの産業についての学習を行う。夏休みを利用して、見学やインタビューに出かけて、産業の調査を行う。

- ・道德の授業（手だて③）

地域の人へのインタビューを行うことに関して、人への思いやりや礼儀についての授業を行う。また、特別活動で行ったハッピートークトレーニングで学習したことを確認する。